



「異学年の交流を通して」

校長 高嶋 聡

いよいよ今年度のまとめとなる3月を迎えます。この一年間子ども達の成長は、一人ひとりの頑張りはもちろんですが、それを支えてくださった保護者の皆様の励ましがあってこそのことだと思います。この3月は卒業や進級を前に、是非お子様と一緒に成長を振り返っていただき、「これができるようになったね。」「そんな風に考えられるようになったんだね。」「しっかりしてきたね。」「次の学年での成長が楽しみだよ。」などと励ましの言葉をかけてあげてください。それを糧として子ども達は逞しく次の成長へと向かっていくと思います。

中和田小学校では、一年を通して異学年での活動や交流を行ってきました。5・6年生の委員会活動、4～6年生のクラブ活動、代表委員会、ペア学年でのなかよし集会などの定期的な活動をはじめ、学校生活に慣れない1年生を6年生が支える活動など様々です。運動会の演技の練習でも上級生が下級生のお手本として頑張る姿がありました。低学年の遠足では、1年生と2年生でグループを作り、2年生がリードしてズーラシアをまわりました。先日の学校アンケートでは保護者の皆様から上級生が優しく下級生の面倒を見る姿が良いというご意見をいただき大変嬉しく思います。

この異学年の交流の一つに幼保小の交流があります。4月に幼稚園、保育園、小学校の担当者が集まり、6月、11月、2月の3回の交計画を立てました。6月は1年生が園児を招待し、体育館でみんなで楽しく踊ったり、教室で折り紙やお絵かきをしたり、校庭でシャボン玉をして遊びました。11月も1年生の教室で授業体験として算数の形遊びや国語の音読、音楽の楽器遊びなどをしました。園児にとっては、数カ月後の入学に向けてイメージをもったり不安を少なくしたりすることができたのではないのでしょうか。1年生にとっては、一つ上のお兄さんお姉さんとして活動することにより、自分の成長を実感したり、進級への意識が高まったりしたのではないかと思います。2月は5年生が園児とペアになり、学校探検をしながらいろいろな教室や施設の紹介をしたり遊んだりしました。5年生は4月から6年生として1年生のお世話をします。この時期と一緒に過ごすことによって、小さい子に愛着をもったり、支えるコツをつかんだり、上級生としての責任や他の人の役に立つ喜びを実感したりする貴重な体験になったと思います。

異学年交流の時の子ども達の笑顔はとても素敵です。普段の教室での様子とはまた違った姿を見せてくれる子どもがたくさんいます。そして、教室では見られない一面や活躍を発見することは交流を見守る私たち教員の喜びでもあります。お互いを理解し、いたわり、感謝し、尊敬することで、自己肯定感や責任感が育まれます。交流を通して他者意識も育っていきます。そして、活動での成功体験や自信が子どもの「自己有用感」に繋がっていくのだと思います。

3月には、卒業式があります。今年度は久しぶりに在校生を代表して5年生が式に参加します。最上級生のバトンを受け取る意味で大切な経験です。これまで学校のリーダーとして立派な姿を見せながら活躍してきた6年生が巣立つ姿をしっかりと目に焼き付けてほしいと思います。

間もなく令和5年度が終わります。保護者・地域の皆様には、今年度も本校の教育活動に多大なる御理解、御協力をいただきました。誠にありがとうございました。令和5年度は、コロナ禍による制限が緩和され、子ども達の健やかな成長のための教育活動を少しずつ取り戻すことができました。より良い中和田小にしていくためには保護者・地域の皆様の変わらぬ御理解、御協力が必要です。令和6年度も、引き続き御支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

